



税理士・社会保険労務士・中小企業診断士

みずの通信

水野会計事務所

500-8288 岐阜市中鶉 3-70-7

TEL058-273-2484 FAX058-273-2416

2018.5

杉原千畝さんの時代

杉原千畝さんの顕彰施設が、母校の愛知県立瑞陵高校にできるとか。

その施設を観て、生誕の地である八百津にまで、栗きんとんを買いがてら、足を延ばしてみようかと思っ
てもらえればと思います。本家争いなどは絶対やめてもらって、お互い仲良くやってほしいですね。

千畝さんが活躍した戦前の日本外交イメージは、南京、上海、満州等での軍部や政商たちの動きですか
ら、西欧における日本外交の在り方を知らない私は、杉原千畝さんだけを見てしまうと、何とも言えない異
質さを感じてしまいます。映画を見て、杉原千畝さんだけの行為でなく、ビザ発行後、多くの日本人が船を
用意し、日本への入国等の労をとったことなどを知って、少し腑に落ちたところです。

須田しのぶさんの「また、桜の国で」という本を読みました。出だしは、シベリアに抑留されたポーラ
ンド人の話から始まります。シベリアで飢えと寒さと病気とで次々と死んでいく人達を、何とか子供だけでも
救出し、祖国ポーランドに帰りたいと、ポーランド政府がその支援を各国に要請します。しかし、アメリカ
もヨーロッパ諸国も二の足を踏んで、なかなか承諾が得られない中、日本大使館に依頼すると、すぐ本国に
打電され、わずか17日で政府決定が下され、大々的な救出作戦が実行されます。それにより700人以上の
孤児を、敦賀湾に受入、日本国で治療や食事を与え、元気な姿にしてポーランドに送り返したという逸話で
す。

ポーランド人に親日家が多いと言われる所以とされています。



そしてこの小説では、ドイツ、イタリア、日本の三国同盟が締結されてしまう前まで、ポーランドの日本
大使館の人たちが戦争回避のために尽力する姿が描かれます。(ここはフィクションかどうかわかりませ
んが。)

これを読んで、杉原千畝さんの行為は、東欧において平和外交に駆け回る日本人たちのメンタリティに
通じるものだったんだなと、やっと得心できた気がしました。きれいごとだけが動機ではないとしても、当
時、日本の政治を司る人たちもヒューマンイズムに溢れた人たちが多かったということでしょう。そんな日本
人を戦争が狂気に変えていったということなのでしょう。

この本、前半は読めます。後半は嫌になるくらいめんどくさいです。前半はヒューマンイズムの話、後半
は武士道と殺戮の話です。後半はほとんどカットでよいと思います。

まちづくりに思う

まちづくりについて、あまり考えなくなっていて久しいですが、名古屋城エリアに金シャチ横丁ができたとい
うことで、少し頭が触発されました。

金シャチ横丁は、宗春ゾーンと義直ゾーンとがあります。宗春ゾーンは石垣とお堀を借景にした道沿いに
店舗が並び、一度は立ち寄りたいたいと思わせる趣があり、コンセプトとしては新規性があり、好感度が高い
です。

義直ゾーンは、広場にある長屋仕立ての飲食ゾーンで、よくあるコンセプトです。お店が有名名古屋めし
店ということですが、名古屋人が日ごろここまで食べに来るか考えると観光客目当てということでは
う。



大手コンサルの調査研究事業の提言のほとんどは皆同じで、地元物産の販売、飲食、お風呂、イベント、手作りコーナーです。これは数字や事例等をその都度色々と組み換えはしても、規模の大小により適当につじつまを合わせたものばかりです。金シャチ横丁もその延長線上のものに見えます。

日本昭和村も平成 14 年のオープン時には 140 万人の入場者があり、その翌年は大きく落ち込みましたが 90 万人、あとは長期下落傾向で、近年は 30 万人台です（名前を変えてリニューアルオープンです）。あれだけ人気を博した名古屋港エリアのイタリア村も破産しました。

伊勢神宮のおかげ横丁は、まさに横丁、街になっている規模で、一軒一軒もそれぞれ趣のある大きな建物になっていて、同じ「横丁」の名前がついていても、金シャチ横丁とは全く別物です。彦根城の前のキャスルロードにしてみてもそうです。

金シャチ横丁は、近郊の商店街に影響を与えるでしょうか。たぶん、大した影響は与えないでしょう。なぜなら、名古屋駅前という全てを吸い寄せる巨大集積地がそばにあり、脅威は名古屋駅前であることは何ら変わらないからです。栄ですら名古屋駅前にどう対抗するかだけを考えているでしょうし、商店街もこの金シャチ横丁も名古屋駅前を意識するのであって、お互い何のライバルにもなりません。あえて言えば、協力し合って、名古屋駅前に少しでも対抗できるかということです。

岐阜市も同じで、何の影響もないでしょう。

岐阜市は若い仕掛人たちが活性化の戦略を次々と実行していき、すごいなあと思います。そんな中、行政は何をするべきか。行政はそのインフラを整えることでしょう。その一つですが、長良川の花火大会の時、バスは大いに混雑、混乱します。なぜか。岐阜バスはトイカカードが使えないため、岐阜市外から押し掛けられた人々が混乱をきたすからです。もうアユカカードではだめなのです。岐阜市を中心にして 100 万都市構想を実現しようというのでしたら、トイカが使えないとダメだと思うのです。周辺都市がトイカの普及に入ったら、岐阜市だけがガラパゴス化して取り残されてしまいます。岐阜市も名古屋と同化していかないと、そして、名古屋の人が同じエリアと感じて、気軽に岐阜に遊びに来るようにしないといけないのです。

玉宮界隈が賑わっています。しかし、まだ玉宮が少し賑わってきた兆しが見られたとき、お店の店主と色々話していたら、オーナーは名古屋人とのことでした。玉宮という地に最初の目を付けたのは名古屋人であって、岐阜人ではないのです。

岐阜の魅力を見つけ、新たな火付け役になってくれるのは、外から気にかけて眺めてくれる人たちなのです。（外国人観光客が日本の新たな観光地を発掘するように）

さて、名古屋駅から名古屋城まで遠いように感じますが、歩いてみると意外と近いのです。地下鉄では栄まで東山線で行って、名城線に乗り換えて、直角に北上しますから、時間がかかり遠く感じますが、斜めに直進すれば、距離は短くなります。名古屋駅から国際センターまで少し歩き、その裏手から、四間道（しけみち）という古い街並みに入ります。

四間道は、4間しか道幅のない道という意味です。四間道は円頓寺商店街に隣接しています。その商店街を散策しながら抜けると、すぐ外堀通りに出ます。もう名古屋城です。

途中に円頓寺商店街や四間道があることが息抜きとなり、名古屋城までの道のりが短く感じさせるということもあるでしょう。ですから、円頓寺商店街や四間道は広域で捉えると立地は悪くないのですが、建物群に埋もれてしまい、駅と名古屋城をつなぐことができず苦戦していると感じさせます。

今年度改正された事業承継税制がずいぶん話題となっています。まだ改正されたばかりですので、その詳細が分かりません。できれば、来月号には案内できたらと思います。



人は城 人は石垣 人は堀
情けは味方 仇は敵なり（武田信玄）